

地球温暖化防止に取り組んでいます

市が行う事務事業による環境への負荷の低減、温室効果ガスの排出削減の取り組みを実践していくために平成18年3月に「多久市地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

計画では平成18年度から22年度までの5年間で、温室効果ガスの排出量を16年度比(6,407,912kg)で約6%削減を目標にしています。平成19年度のガス排出量は、平成16年度比で、約2・8%を削減することができました。

この件については、市のホームページに掲載していますので、ご覧ください。

<http://www.city.taku.lg.jp/>

目標達成に向けての 現状と今後の対応策

○市役所庁内で取り組んでいる、電気・燃料等の使用の抑制、公用車の適正な管理による環境負荷の軽減等についても一層の推進に努めます。

○市の事業で排出する温室効果ガス(うち98%の成分はCO₂・二酸化炭素)の2分の1は、清掃センターでの収集ごみの焼却によるものですが、平成19年度は一般家庭ごみの分別収集等が普及したため、平成18

年度の5、764tから5、110tに減少しました。

しかしながら、これら家庭ごみの中の、ビニール、合成樹脂、ゴムなど、本来はリサイクル可能なものが含まれる廃プラスチック類の焼却量が、前年の997tから1、140tに増えたため、焼却処分分で385、385kgのCO₂を排出する結果となりました。これは平成19年度のCO₂総排出量の6%を占めています。

今後は廃プラスチック類等の資源ごみの分別の徹底や、レジ袋・割り箸からマイバッグ・マイ箸への転換の促進のために、多久市全体で取り組み、省エネ・省資源、そして温室効果ガスの削減につなげたいと考えます。

みなさんの温暖化防止へのご協力をお願いします。



■問い合わせ

くらし部経営統括室

☎ 75-2113

生ごみの水切りをお願いします

家庭から出される約4割が生ごみで、その50〜80%は水分であるといわれています。

お茶の出がらしや野菜くず等は多量の水分を含んだままにしておく

と、やがて強い悪臭が発生します。また、焼却の時も水分が多いと燃やす時間が長くなり、CO₂(二酸化炭素)の排出量も増え、環境にも負担をかけることになります。

生ごみの水切りをすると

○生ごみが乾いていれば腐りにくく、臭いの発生防止になります。

○ごみの焼却過程での処理負担が減り、焼却時のCO₂排出量を減らすことができます。

水切りの方法には、生ごみを三角コーナーに入れておく、水切りネットを使用する、などがあります。

ごみとして捨てる時は、水分をよく切ってから、燃えるごみの日に出してください。



「生ごみ」は堆肥化することで

資源になります

市では、家庭で生ごみをたい肥化をしようとする方を支援することを目的に「家庭用生ごみ処理機購入費補助金」を交付していますので、ご活用ください。



コンポスト容器・EMボカシ容器・電動式の生ごみ処理機の購入で補助を希望する方は、事前に市民生活課にお問い合わせください。

お知らせ

透明だった可燃ごみ(中)の袋が、今回販売分より若干黒色になりました。これは原料高騰等により、ごみ袋の製造時に発生する端切れを再利用して製造しているためです。強度等は変わりありませんので、今までどおり使用してください。

■問い合わせ

市民生活課 生活環境係

☎ 75-6117